

藻類学ワークショップ I 「藻類イラスト講座」 参加記

土井耕作

藻類学ワークショップ I 「藻類イラスト講座」は、日本藻類学会第 37 回大会初日の 2013 年 3 月 27 日 (木) に、山梨大学で開催されました。イラストは、見た目の印象はもちろん、生活史や複雑な構造の説明をするときに簡略化して伝える手段としても有効であり、学会発表などでも良く使用されています。私は、本大会の案内を見たときに、この講座が開催されることを知りました。私の研究で生活史を書かなければいけない状況でもあったため、まさにこのような技術的な講習会があればと思っていたところでした。また講師に中山剛先生、内田博子先生と藻類のイラストで有名なお二人であったこともあり、これは早く予約しなければ、人気で満員になってしまうのではないかと思ひ、すぐに参加の申し込みをしました。

当日、山梨県は桜が満開で、大学に向かうまでの桜並木がとてもきれいでした。ワークショップでは、大学の先生方、学生の方など約 20 名の方が参加されており、教室は満席で、早めに申し込んでよかったと思いました。講座では、自身のパソコンに入っている「Adobe Photoshop」「Adobe illustrator」を使用して、講師の先生方が自作されたテキストを見ながら、実際にイラスト作成の流れをご教授いただきました。

中山先生の講座では、ペンツールの使用法、基本図形の書き方、図形の合体方法などの基礎的な部分から、核やミトコンドリアの書き方、オルガネラを立体的に見せる方法など実践的な部分と、ボリューム満点の内容でした。特に、何も書かれていないスクリーンにオルガネラがあつという間に描かれているのを見たときは、驚きでした。先生は、イラストの書き方を独学で学ばれたとおっしゃっていました。もっとも印象に残っていたのは、核内の染色質や仁をもっともらしく見せるために、1つ1つの点を使って表現していることが衝撃でした。全体をきちんと見せるには、膜やオルガネラの部分も細かく、また根気と努力が必要だと実感させられました。

内田先生の講座では、イラストの書き方を、クラミドモナスを題材に、ツールの選び方、アンカーポイントを使った変形の仕方を、1つ1つ丁寧に教えていただきました。また、渦鞭毛

藻類や大型藻類など、一筆書きで書くには大変な生物を、分割・合体を使ったテクニックで、描けることも教えていただきました。その中で、もっとも印象に残っているのは、私も研究材料にしているストラメノパイル生物のマスチゴネマ(鞭毛小毛)を、線の設定で簡単に書くことができたことです。間隔や長さなどの調節が大変だったので、こんなに簡単にできることに驚いてしまいました。いかに時間をかけないで作成するという、プロの技を見せていただきました。そうこうしているうちに、3時間が過ぎてしまい、講座が終了しました。

私は、藻類学ワークショップに参加するのは初めてだったのですが、今回の講座に参加して、とても良い体験をさせていただきました。講座中に見せていただいた先生方のイラストは、とことんこだわっているという気持ちが伝わってくるものでした。これは研究と同じで、イラストにする生物の知識やデータ、その生物を描く表現力とセンスがあつてこそできるものであると実感しました。私が今まで書いてきたイラストでは、それなりに書けているような感じはしていたのですが、自分が伝えたいこと、示したいことが表現できておらず、それっぽく書いていというものでした。この講座を通して、研究や学会発表でも分かりやすく、表現する力を付けていくことが必要であると思いました。今後、自分の研究で生活史などのイラストを作成するときには、そのイラストで何を表現したいのかを考え、細部の部分まで気を配り、良いイラストを作成していこうと思います。またこの講座のように、その分野のプロの先生方から、知識や技術をご教授していただける機会がありましたら、積極的に参加して身につけていこうと思います。

最後になりましたが、藻類イラスト講座の企画・準備など、運営にご尽力下さった国立環境研究所の河地正伸先生、イラストの書き方、テクニックの数々を丁寧に教えていただきました筑波大学の中山剛先生、神戸大学の内田博子先生に深く感謝申し上げます。またお忙しい中、ワークショップ会場を準備下さった山梨大学の大会準備委員会の皆様に深く感謝申し上げます。

(甲南大学大学院自然科学研究科)



中山先生の講座の様子



内田先生の講座の様子